

令和5年度の調査で出土した遺物の特徴

出土遺物は大きく3つの時代に分けられます。第一の時代は6世紀(古墳時代後期)で、高杯・杯と共に石製模造品が出土しました。第二の時代は8~9世紀(奈良・平安時代)で、この遺跡の主体となる時代です。昨年度の調査では8世紀(奈良時代)を中心とした遺物が出土しましたが、今回の調査では9世紀(平安時代)の土器が沢山見つかりました。土師器では碗や煮炊きを使う少量ながら内面黒色碗が出土しました。須恵器では杯・杯蓋・瓶・甕など多様な器種がみられます。この時期には漁撈に用いた土錘や鍛冶に関連した鉄滓などもあります。第三の時代は13世紀(鎌倉時代)を中心とした時代で、能登半島で焼かれた珠洲焼、木製品(漆器碗・箸・刃物の柄・下駄)、鉄鏃・銭貨が出土しました。



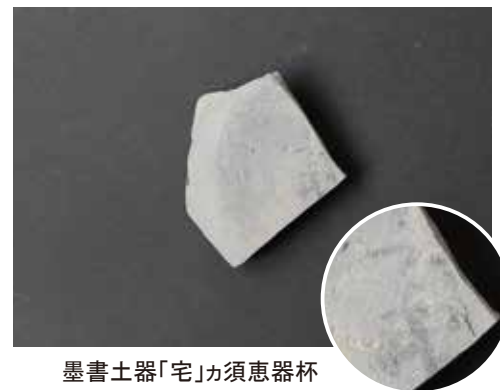
古墳時代の遺物(土師器・石製模造品)



奈良・平安時代の遺物(須恵器)



奈良・平安時代の遺物(土師器)



墨書土器「宅」か須恵器杯



中世の遺物(珠洲焼)



中世の木製品(漆器碗・箸)



中世の遺物(鉄鏃)

お問い合わせ先

新潟市文化財センター TEL 025-378-0480
〒950-1122 新潟市西区木場 2748-1 FAX 025-378-0484
<https://www.city.niigata.lg.jp/kanko/bunka/rekishi/maibun/index.html>



開館時間 / 平日 午前9時~午後5時
土・日・祝日 午前10時~午後4時
(体験受付は午後2時半まで)
休館日 / 月曜日(祝日の場合は翌日)、祝日の翌日、
年末年始(12月28日~1月3日)

お車で

- 北陸自動車道黒埼スマートインターを北へ約6分(2.9km)
- 新潟西インターを南へ約16分(6.0km)
- JR 新潟駅から車で約39分(14.4km)
- JR 越後線 寺尾駅から車で約18分(6.1km)

バスで

- 青山バス停発 新潟交通バス W80、81 味方・月潟線「木場川前バス停」から徒歩約30分
「木場バス停」から徒歩約15分



※『みどりと森の運動公園』の案内看板を目印にご来館ください。

茶院A遺跡発掘調査現地説明会

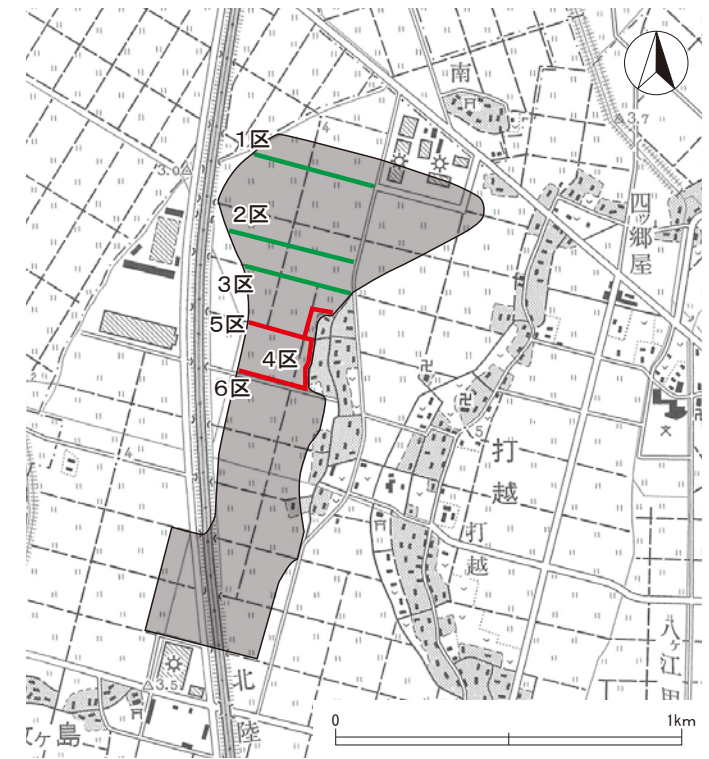
2023年10月14日(土) 主催 / 新潟市文化財センター 協力 / 株式会社吉田建設

茶院A遺跡について

茶院A遺跡は、西蒲区打越(旧中之口村)にある南北1.5km、東西0.5kmで細長く延びる形状の遺跡です。遺跡は、現在の打越集落に沿った形で古い自然堤防(川の両側に土砂が堆積した地形)の上に営まれたと考えられます。

平成27年から県営ほ場整備事業に伴って、遺跡の調査を行っています。これまでに古墳時代から江戸時代まで断続的に人々が暮らした痕跡があることがわかっています。令和4年度の調査では、主に奈良時代後半の掘立柱建物跡や、農業拠点施設を表す「宅」と書かれた墨書土器が5点、蒲原郡司の四等官(主張)の名前と考えられる「丈部カ」の墨書土器が1点見つかりました。これらの成果から、奈良時代にはこの場所に蒲原郡が管理する農地があったと考えられます。

令和5年度は、排水路および排水管敷設のために3路線約1,800㎡を調査しています。



茶院A遺跡範囲 2022年調査地区 2023年調査地区

茶院A遺跡周辺の層位と地形について

茶院A遺跡は、南北に細長く、標高は2.0~2.4mで西の高速道路側ほど低くなっています。高速道路の西側には旧澁瀧に注ぐ大通川があり、近世はじめに打越の西側にあった大沼の水を大通川へ排水し新田開発した経緯があります。大沼の跡地は、排水不良であったため堀を掘ってその残土で田のかさ上げする「掘上げ田」が作られました。掘上げ田は昭和30年代まで残っていました。

この地域が湿地帯であったことは茶院A遺跡の基本層序からもわかります。茶院A遺跡のほとんどのところで黒褐色粘土層(VII層)が確認できます。昨年度の自然科学分析で、VII層からはウキヤガラ、ホタルイ属、コウホネなどの水生植物の種子が見つかり、茶院A遺跡一帯が湿地帯~水辺であったことがわかりました。しかし、遺跡が見つかったのはこのVII層より下の層位です。この分析結果と層位の関係から遺跡が廃絶した後に湿地帯となったことが推測されます。



基本層序(5区)

令和5年度調査の概要

ほ場整備事業のうち、排水路と排水管敷設部分の2路線、約1,800㎡について発掘調査を行っています。遺構や遺物が特に多く見つかったのは、東西方向に調査区がある5区と6区の東側です。遺構を確認できる面（昔の人々が生活していた面）の深さは一番浅い5区中央で30cmですが、これは元々標高が高かったところを昭和30年代の耕地整理で削ってしまったからだと考えています。逆に調査区の東端4区では、地表から80cmで遺跡が見つかるほか、標高の低いところに土をいれて整地をしたような跡が見られます。

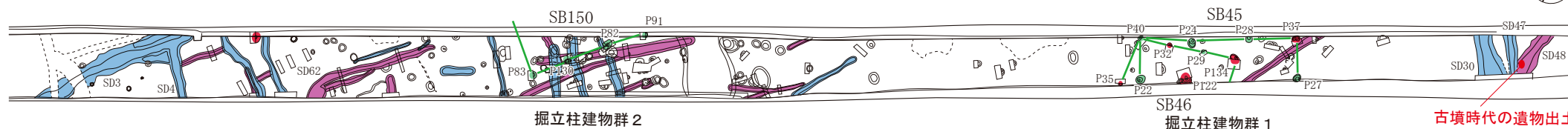
5区

溝や土坑、柱穴と考えられる小穴が見つっています。掘立柱建物も現在3棟確認できました。建物は5区の中央にある微高地に集中しています。出土した土器のほとんどが奈良・平安時代のものでしたが、東端の溝SD48から古墳時代の高杯と石製模造品が出土しました。石製模造品は鏡や剣を模した飾り（さいし）に使われていたものです。西蒲区では、角田山麓の御井戸遺跡で出土しています。平野部にも、まだ見つからない古墳時代の大きな集落があるかもしれません。



5区下層完掘状況

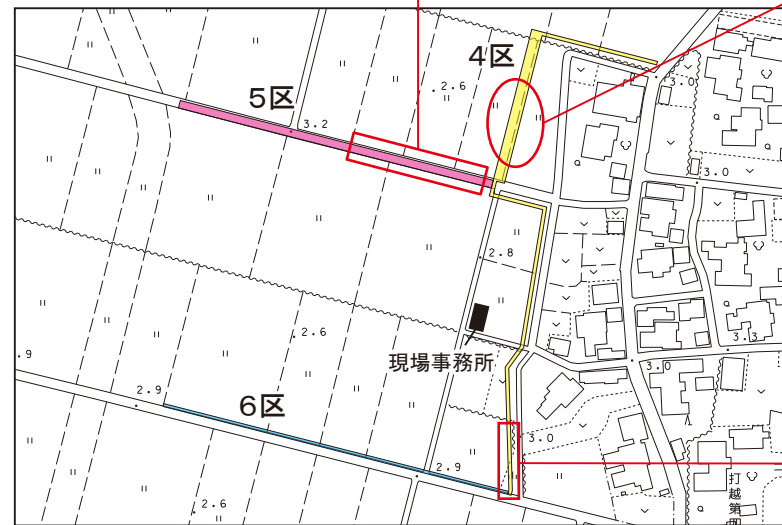
- 掘立柱建物
- P(掘立柱建物の柱穴)
- P(柱根・礎板有り)
- SD(新しい時期の溝)
- SD(古い時期の溝)



5区 掘立柱建物群1全景(南西から)



掘立柱建物(再現イラスト)



※新潟市農村フォトギャラリーより



水路とハサ木(福井地区)

4区

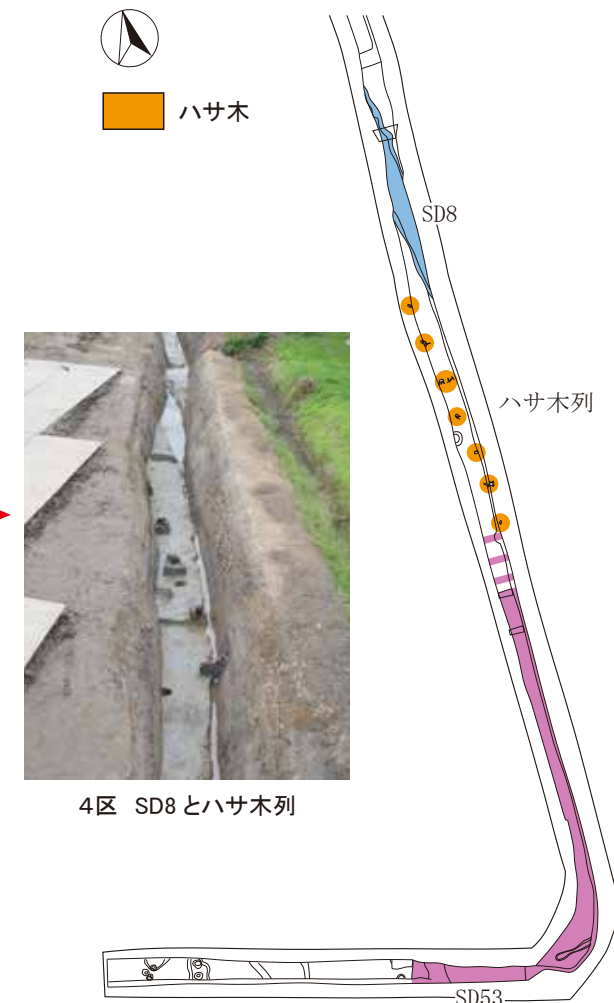
南北の路線を4区としました。5区に隣接する北側の区間で、水田跡が見つかりました。水田跡からは、奈良・平安時代の遺物しか出土していないことから古代の水田と推定しています。現在検出している水田は3基で、畦畔（あぜ）や水口も確認されています。

また、調査区南側では南北方向に走行する溝が2条見つっています。この溝の1つSD8に並行して立ち木の痕が7本確認されました。この一列に並んだ木は農業が機械化する前に刈り取った稲を干すための「ハサ木」ではないかと考えています。このハサ木は、奈良・平安時代の包含層を壊していることから、平安時代以降に植えられたものと考えています。今後、自然科学分析などを行い、時期を調べます。



4区 水田跡 ※色の明るい所が畦畔

- ハサ木



4区 SD8とハサ木列

0 (1:300) 15m

6区

幅が狭いながらも複数の井戸や溝、大きな穴が見つかりました。東端には13世紀の珠洲焼、鉄鍬、中国で唐から宋の時代に使われた銭貨「開元通寶」が出土したSD53があります。SD53は幅が6mほどありますが、東端は調査区外へと延びており、正確な幅がわかりません。



6区 SD53 断面